

学校評価の結果に関する考察

令和5年1月

1 成果と課題について

児童

■成果

- ・「1学校へ行くのが楽しい」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より4%増の96%となった。
- ・「6家族や近所の人・友達・学校の先生にあいさつができています」の項目で、96%の児童が「思う・少し思う」と答えている。前期に『「こんにちは」チャレンジ』を開始してから、来校者や先生に対し「こんにちは」の声がよく聞かれるようになってきている。
- ・「17新野町（阿南市）という町が好きだ」の項目では、昨年同様「思う・少し思う」と96%の児童が答えている。ふるさと学習の充実や町内3小中学校によるコミュニティ・スクール事業の計画的な実施により、ふるさとを愛する心情を育てていきたい。

■課題と今後の取組

- ・「2進んで勉強している」「5進んで読書をしている」の項目で、「思う・少し思う」と答えている児童は70%台にとどまり、昨年と同様に受け身傾向が見られる。ポジティブな行動支援(※)により、児童の学習・読書意欲を高める。
- ・「4タブレットを使うことで、授業が分かりやすくなった」の項目で、「思う・少し思う」が83%で13%の減。「あまり思わない」と答えた児童が17%（4名）の増。タブレットの利用の仕方、内容、タイミングなど工夫改善が必要である。
- ・「9なやんだり、困ったりした時は先生に相談している」の項目で、「思う・少し思う」と答えている児童は、昨年同様60%台である。児童の様子に気がかりなことがあれば教員から声かけをしたり、日常会話だけでなく日記を通じて会話をしたり、何でも相談できる人間関係づくりに努める。
- ・「16朝ご飯を食べて登校している」の項目は、「思う・少し思う」が100%であるが、「15早寝早起きができています」の項目は、「あまり思わない・思わない」が25%あり、昨年より13%増となっている。保健調査によると、朝ご飯においても、主食のみであったり好き嫌いがあったりと、課題がある。引き続き家庭と連携を図り、改善に取り組む。

※ポジティブな行動支援とは、行動のきっかけを与え、積極的なよい行動を認め褒めることで、望ましい行動を増やす支援です。望ましい行動を増やすことは、困っている問題行動を減らすこととなります。

保護者

■成果

- ・今年度は、授業参観や各種行事が予定通り実施できたことが多くなり、「2学校は授業などを公開する機会を十分に設けている」の項目の「思う」が、27%上昇した。「7学校は、地域の方々と連携しながら教育活動を行っている」の「思う・少し思う」の割合も20%増加した。
- ・「4タブレットを分かりやすい授業や家庭学習に活用している」の項目は、「思う・少し思う」が100%であった。授業で常時使用し、長期欠席児童とのメールでのやり取りや課題提示にも活用できた。授業参観でも活用の様子を公開した結果だと考える。
- ・「8先生に気軽に相談できる」の「思う・少し思う」の割合も16%増加した。
- ・「10お子さんは、楽しく学校に行っている」、「11お子さんは、あいさつができています」、「13お子さんは、友だちと仲良く遊んでいる」の「思う・少し思う」は、ほぼ100%である。

■課題と今後の取組

- ・「13お子さんは、自分から進んで勉強している」の項目は、保護者の視点からも「思う・少し思う」の割合は昨年同様かなり低い。少人数の利点を活かし、個に応じた細かな指導により習熟を図り学習意欲を高める。また、タブレットのドリル等を活用し、自分に合った学習量や質を選択させ、ポジティブな行動支援により意欲付けをする。
- ・「14お子さんは、『早寝早起き朝ごはん』ができています」の項目は、昨年度に比べできた割合が低下している。1日の生活や健康に影響する大事な生活習慣であるので、保健指導の中心的課題に据え取り組む。

2 来年度に向けての学校改善について

○学力および学習意欲向上に向けて ～少人数のメリットを生かして～

- ・学校では、「学力向上実行プラン」を作成し、それに従って教科指導をしている。（学校ホームページで公開中）そのプランでは、児童の実態より具体的目標を設定し、それを達成するための具体的方策（教員の取組）を示している。2月に達成状況を評価し、次年度に向けての改善事項をまとめ、次年度のプランに繋げていくサイクルとなっている。ホームページを、見ていただきたい。
- ・少人数のメリットを生かした「わかる授業」の展開こそ、学力保障と学習意欲の向上につながる。少人数学級では、児童一人一人の学習内容の理解度やつまづきを把握し、個別に対応していくことができる。タブレットの操作・活用についても同様である。また、思考（自力解決）の時間を確保し、自分の考えを発表する機会を多く与えることもできる。そのような少人数のメリットを踏まえた「学力向上実行プラン」を作成し、きめ細かで工夫ある教科指導を展開する。

○互いのよさを認め合える仲間づくり

- ・一升ヶ森登山、オリエンテーリング遠足など様々な機会に異年齢集団班（キラキラ班）活動を取り入れている。本年度の人権集会（えがおキラキラ集会）では、仲間づくりに関わる様々なテーマで話し合いの機会をもった。集会を通して、友達のいいところやその子の考えや思いを知ることができた。また、自分の考えをみんなの前で発表したり、互いの意見に同意したり、付け足して発言したりすることで、表現力も身に付いてきた。さらに、高学年においては集会を運営することでリーダー育成にも繋がった。来年度も一人一役の活躍の場がある本校のキラキラ班活動を、仲間づくりやリーダー育成の機会としたい。

○児童の基本的な生活習慣について

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付くよう、家庭との連携をより一層進めるとともに、児童一人一人の実態を把握し、規則正しい生活について保健学習や学活等を通して指導していきたい。

○家庭・地域との連携について

- ・今年度、町内3小中学校が連携してのコミュニティ・スクールが導入された。新野町内における連携体制を構築し、教育活動に有効に働くようにしたい。
- ・地域教材や地域人材を活用した体験的学習を進めることで、ふるさとを愛し、ふるさとの未来を担う人材育成に努めたい。
- ・コロナの影響は続くと予想される。学校行事等の実施にあたっては、子ども達の安全や学力保障を最優先に、最善の方法を話し合い、学校・家庭・地域の密な連携で対応していく。

○学校の安全対策について

- ・学校前のバイパス道路は、歩道が整備されているものの、速度超過や追い越しをする車が多く、危険度は非常に高い。学校前の横断歩道での立哨指導や登校班の縦列歩行指導を継続して行うとともに学校、地域、家庭、諸機関が連携し、子ども達の命を守る取組を推し進める。
- ・地震や火災、不審者侵入時における避難訓練においても、様々な時間帯を想定して計画的に実施し、自ら命を守る行動がとれる児童を育成する。

○学校運営について

- ・学校経営に関して様々なアイデアを教職員から求め、組織運営に生かしていく。また、それぞれの専門的な知識や能力・適性を生かし、チーム学校として創意工夫を行い、地域に開かれた特色ある教育活動の展開を旨とする。
- ・風通しの良い職場づくりに努め、管理職のリーダーシップの下で全教職員の協力体制を整え、全ての職員で児童の指導にあたるようにする。